

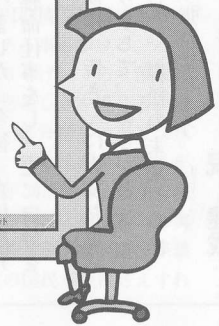
# 波紋

平成14年 11 NOV No.209

PUBLISHER: 森松株式会社 EDITOR: 梅田文康



是非御覧ください



## 森松USA 「銃とアメリカ」

先月に首都ワシントンDC郊外にて連続狙撃事件が発生しました。これを書いている時点で11人が撃たれそのうち9人が亡くなっています。たった一丁のライフルが毎日紙面を賑わしています。この事件からアメリカ銃社会について調べてみました。

99年のアメリカ民間人の保有する銃は人口に近い二億二千万丁であるとのこと。90年度の時点で銃火器による死者は一万一千七百十九人となっていますが、これは近年の日本の交通事故による死者とほぼ同じです。アメリカでは毎日30人が撃ち殺されている計算です。日本の銃火器による死者は87人、カナダは68人という結果でした。もちろんカナダの人口はアメリカ(二億八千万人)の七分の一ですが、比率では明らかにアメリカは多いと言えます。つまり何故アメリカでは銃による殺人事件が多いのか? という疑問に突き当たります。カナダでは同じ割合にならないというときは、暴力的なメディア、テレビゲーム、音楽、果たしてこれが原因でしょうか? いや違います。これらは先進国のほとんどで受け入れられています。アメリカという国の特殊性に原因があると見ることが出来ます。あるいは現代社会の一つの問題とすることが出来るかもしれません。

第二次大戦以後も各国紛争に介入、爆撃を行っているアメリカ、現在も予断を許さない状況ですが国全体が引き金を引くことに対して躊躇しないという性格であると言えるでしょう。

約一年住んでみて、NYでは銃を使った事件に巻き込まれたことも遭遇したことも無いので安全な場所であるというのが私の感想ですが、私が思うに、国としての銃、つまり軍事力による解決手段は新たな報復を生みます。是非とも平和的な解決を探って欲しいです。武器を売り捌く汚いビジネスよりはキレイなビジネスを願います。



社長 森 直樹

## 『パソコン中毒』

森松の営業マンは、パソコンがなかったら1日たりとも仕事ができな  
い。出社し、席に座る前にパソコンの  
スイッチを入れる。それから、上司・  
仲間挨拶し、その後WEBメールの  
チェック・返信する。それから、電子  
会議室を閲覧して全員の日報に目を通  
し、仲間の行動を確認しておく。回覧  
版・掲示板も閲覧する。それからユツ  
クリお茶を飲む。

これが平均的森松営業  
マンの1日のスタートで  
す。「サラリーマンを殺  
すに刃物はいらぬ、パソ  
コンを3日取り上げれば  
良い」と言う川柳がある  
ほどですが、思わず苦笑いですね。

パソコンは指と目を使うだけで、ほ  
かの五感(鼻・耳・口・皮膚)を働か  
せない為、退化してしまう危険がある  
そうです。見知らぬ人とも対話して、  
手足を使って行動し、体全体で情報を  
掴み取らなければ本当の情報を取集出  
来ない。携帯電話とパソコンだけの情  
報では……問題あるね。

2〜3年で自宅の入り口まで光フ  
ァイバー網がやってくる。パソコンを使  
える人とそうでない人の差はスゴイ差  
になるような気がします。まず携帯電  
話を使いこなす事か  
ら私は始める事にし  
ます。



森 信之



## 『森松研修生活』

私は、9月上旬から10月末まで、約50日間森松(株)  
本社で、日本語研修をさせて頂きました。これま  
でも、上海の家族や、街を離れ、日本に来て研  
修させて頂く事はあり、日本の生活や、職場の雰  
囲気には、少しは慣れていました。しかし、外国  
に滞在している私にとって、不慣れな部分はあり、  
会長始め、ちかさん、牧野さん、また他の社員の  
皆さんの至れり尽せりの手厚い持て成しには、心  
から感謝しております。

今回は、日本企業の経営状況や、社員の働く現  
状等、中国で習えない事をたくさん勉強させて頂  
きました。研修をさせて頂き、会長や社員の皆さ  
んに聞いたり、質問するにつれ、社員の皆さんの  
会社(仕事)と家庭に対する考え方が良く分かり  
ました。社員の皆さんが、仕事に対して強い向上  
心を抱いている事を知り、感心しました。日本人  
の強い民族意識と、愛社精神の結果が、日本を世  
界の経済大国に成長させたと思います。森松は、  
「人生の教育大学」とも呼べると思います。会長は、  
広く、深い知識を持っており、会社経営において  
も豊富な経験を持っており、私が、学ぶべき事は  
多大にありました。

今回の研修生活は大変でしたが、10年かかって  
も得られない事を学ぶ事が出来ました。森松にい  
る50日間で、客観的に物の見方を変えたり、新し  
い価値観を作り出したり、全ては、中国及び本  
は学び取れない事を学びました。今後、森松を発  
展させていく為に一生懸命仕事をし、更に自分を  
充実させていきます。



倪 建成

最後に、皆さんに大変お世話  
になりました、ありがとうございます  
皆で頑張りましょう。

## 『あの溪谷』

堰堤上の崩落部を、慎重にトラバースしながら何とか通過し  
た。ここをやり過ごせば、求める世界があるはずだった……

けれども、わずかに廻行した地点で待ち構えていたのは、古  
い城壁のような巨大な堰堤。誰がいつ、いったい何の目的のた  
めこんなものを造ったのだろう。切り立ったゴルジュの両岸に  
巻き道はない。ただ上流部から流されてきた太く大きな8m程  
の流水が逆さまになって堰堤下のプールに突き刺さっていた。  
これを登れば何とかなる。そう判断して流木にしがみついた。  
木の根元に向かって、何度も滑り落ちそうになりながら登る。  
頭から水しぶきを被って、ビショ濡れになりながら這い上がっ  
ていく。堰堤の壁の上に手を掛け、最後の力を振り絞って身体  
を持ち上げると、両岸には鬱蒼としたブナの森が広がっていた。  
堰堤の上に立ち上流を見やると、美しく穏やかな流れがあった。  
びつりと敷き詰められた底石は、まるで磨かれたように輝い  
ている。もうこの先に人造物は何も無いことを信じて、ザック  
からバックロードを取り出した。

水深20cmにも満たない浅瀬から釣り始める。アップストリー  
ムで、軽くりーチを掛けながら、両岸に向かって交互にフライ  
をキャストしていく。

クマザサが覆い被さった絶好のポイントにフライが入ると、  
黒い影が流れを走り、計算されるような動作でフライを吸い込  
む。すかさず合わせる手、確かな手ごたえが伝わる。かなり強  
い引きを味わいながら手元に寄せた。砲弾型のたくましい魚体  
に、アメ玉のような白斑をちりばめた素晴らしいイワナだった。  
嬉しさがこみ上げ、夢を見ているような気分になった。そして、  
そつとりリス。興奮で火照った身体に突然冷気を感じて、上  
流を見ると溪の奥に夕闇がうずまいてくる。なぜかしらソウ  
イウコトカと感じた。来てはいけなところだったのだと自然  
に納得させられていた。即座に帰路につく。下りは、登りより  
も苦労と恐怖感が追っかけてきた。

堰堤を登った流木も今は朽ち果てているだ  
ろう。もう登る手段はないと思う。もう行く  
ことも無い。



井上 豊(プロジェクト)

読後感

「トヨタウェイ：進化する最強の経営術」

著者：梶原 一明

昨年経常利益1兆円超のトヨタの道のりが良くわかった。今までは、トヨタ自動車については、漠然とすごい会社であるとの感覚でしか見ていなかったが、豊田自動織機のいち事業部門から、現在では、世界第3位の自動車企業に成り立った経緯がよく判った。私が特に関心を持った方は、豊田英二氏である。技術畑で、トヨタの陰の立役者ではなからうかと思う。トヨタ元町工場の構想・立ち上げなど表だった経営陣とは違い、コツコツを企業をバックアップし今日のトヨタ自動車を築き上げたのではないかと思う。後の、石田・奥田・張社長も、経営基盤は現場レベルの支え立てがあり、現在のトヨタ自動車ありきだと思う。トヨタが創業者のワンマン企業であれば、今のトヨタは無い物だと思う。やはり多くの人間の知恵・知識でここまで大きな企業になり、勝ち組に残ってきたのではないかと思う。この原動力となるものが「トヨタウェイ」であるものと思つた。企業の中長期計画をしっかりとて、その根拠が「トヨタウェイ」で数万人社員の意思の疎通を図らねばならないことだと思つた。経営側・雇われ側では、社員数が多くなればなかなか伝わらない訳で、会社一丸となって、目標に進む難しさが感じとれた。今までのトヨタ自動車も、日本でのモータリゼーションに支えられてきたが、今後は世界のトヨタ自動車に成らなければならず、グローバルに展開していかなくてはならないと思つた。真の競争相手は世界にあると痛感した。

この本を読んで、私が小学生のころの作文？（何かの研究だったと思うが。）自動車業界の研究をしたことを思い出した。現在の業界の中身を十数年経ち垣間見る事ができた。表向きはこの本のようなのであるが、裏向きは違う事も多々あるし聞くことも多い。注意しなければならないのは、見方角度があることを念頭に置き参考にしていきたいと思つた。

森下 友博(プロジェクトA)



「ライオンは眠れない」

著者：サミュエル・ライダー

放浪の旅をするイギリス人（作者）が中国から持ちかえった寓話書物に日本の未来が書かれている事の紹介。鷲（アメリカ）龍（中国）鼠（日本）に例えられた国家や登場する動物（人ではない）ライオン・猫・鼠・等、余りにも現代の日本の状況を意図した内容と作者自身の研究テーマでも有る日本の近未来予測に裏付けが取れたかの如く、本書は斯くも説得力を持つ内容で有るかの印象を受ける。鼠国の国王がライオン（小泉総理）大臣ジャジャネコ（田中真紀子）等、読み手が容易に登場人物を推理出来る事も不自然だが、物語の進行過程で現状日本の支持率が下がる小泉内閣（ライオン王）や政治の表舞台から消える事になる田中真紀子（ジャジャネコ？）は内容に紹介されてはいない。

初版は2001年の11月に発行されており、当時の政治世相から推測される専門的な知識が母体に有りそうだ。寓話はライオン王（小泉首相？）を優れたリーダーとして登場させているが、長引く不況と政策の不透明からくる不信感には日に日に人気に陰を落とし、民衆に痛み（我慢）を強いる政策以外、選択肢を持ち合わせていない政治家と私には感じるのだが如何なものか？何より我が国、日本が世界一の借金国で有り本書にある九百十六兆円の債務超過は大変な数字で有ると思う。国が破綻寸前である事も頷ける。しかしその打開策がデノミ（通貨単位切り下げ）であり預金封鎖等の超法規的処だとしたら聊か空恐ろしさを感じる。国民の蓄えを国家の借金に当てる。…あり得ない事では無いと思う。諸外国では良くある事で、日本は半世紀近くデノミは実行されていない。（通貨切り下げは何年も前から言われている事。）Xデー（デノミ・預金封鎖・財産税）が実施される事で国家の債務も救われ未来の子供達、国民が救われる。めでたし、めでたし。（現在の国民が我慢さえすれば）By米百表。

感想として外国人から見た日本も危機的状況で有る事が伺える。客観的に捕らえると打開方法の選択肢も的を射ていると思えるが、惜しむらくはその後の日本がどうなっていくのか知りたいと思つた。書いてなかったのかな？その予言寓話に。……国家財政を学ぶ良い勉強になりました。

成瀬 勝英(ユニティー)



大和田 夕美  
(ドリーム6)  
ご存知の方は  
教えてください。

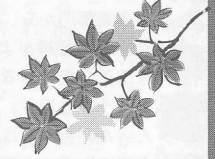
秋も終わりに近づき、越前がにの解禁にあともう少しとなりました。毎年冬になると友達と蟹旅行に行くようになってから今年で5回目です。天候によって蟹のサイズが変化するのも毎年蟹旅行に行つてから分かる事で、茹でたての蟹を眺め昨年との大きさを比較してから「バキッバキッ」と蟹の甲羅を割って頂きます。美味しいのも毎年あたりまえで、私は一年で一番贅沢な時間だと思つます。蟹以外にも日本海で捕れた魚介類もとっても美味しく、朝ご飯から出てくるイカの刺身は大根おろしと一緒に食べるのですがとってもあっさりしていて美味しいです。

毎年、「イカの種類は？」とお店の方に聞くのですが食べ終わつた後には何イカかすっかり忘れてしまつて、後で「何？」「何？」と皆で首をかしげるのですが（皆食べるのに夢中で）、今年こそはこのイカの正体を忘れないように帰ってきたと思います。2センチ×10センチに切つてある薄くて透明なイカで、大根おろしにつけて食べます。

蟹旅行

2002年

11月の予定



|        |             |         |
|--------|-------------|---------|
| 27日(水) | 生産会議        | 18時00分〜 |
| 26日(火) | 編集会議        | 18時00分〜 |
|        | 稲葉さん誕生日     |         |
|        | 営業会議        | 15時10分〜 |
|        | 7時30分〜8時30分 |         |
| 25日(月) | 経営会議        |         |
| 23日(土) | 勤労感謝の日      |         |
| 23日(土) | 超海・上海視察旅行   |         |
| 20日(水) |             |         |
| 16日(土) | 第三土曜休み      |         |
| 15日(金) | 岩間さん誕生日     |         |
| 11日(月) | 誕生会         | 15時00分〜 |
| 9日(土)  | 第二土曜休み      |         |
| 5日(火)  | 法人会支部役員大会   |         |
| 4日(月)  | 振替休日        |         |
| 3日(日)  | 文化の日        |         |
| 2日(土)  | 第一土曜休み      |         |
|        | 梅田さん誕生日     |         |

# 新企画 おらが國の街自慢



私が生まれ育った街「半田」は愛知県知多半島にある街ですが、歴史と文化のある町です。中でも「山車」は有名で、先日の10月5・6日と5年に1回ある「はんだ祭り」が開催され、町中から山車が31台（これは市では日本一らしいのですが）が一同に会すると言う、ダイナミックな祭りです。今回も47万人もの人が半田に会し、まだ祭りが第5回目であるにも関わらず、盛大に行われました。私は山車を見慣れている



のでそうは思わないのですが、市外の人は山車が31台一列に並ぶ様を見ては「圧巻だわ」と驚いていました。祭りは財政上の問題で5年に1度

なのですが、だからこそ祭りが貴重に思えてきませんか？

あと半田は日本一古い木造の駅が有るし、今回の祭りのバックアップを努めた世界のミツカン酢が有り、歴史と文化のある町です。

谷澤 享 (レインボー)



## 編集後記

先日、免許の更新の為平針へ行って来ました。今まで更新の期間が誕生日までの1ヶ月間でしたが、今回から誕生日までの1ヶ月と誕生日から1ヶ月の2ヶ月の間に行けばいいので、余裕を持っていく事ができました。

免許を取って6年になりましたが、車を運転する事はめったにないので当然、無事故・無違反でゴールドの免許証になりました。周りからは、「そのゴールドは偽物だ。ペーパードライブと書いてあるといいな。」などと言われます。

免許を取りたての頃はうれしくて毎日運転をしていましたが、乗っていないなかった期間のほうが長かったので、今では助手席に誰かが乗ってくれないと不安で一人では乗れなくなっていました。運転が出来れば何処でも行けて便利なので、運転する機会をどんどんつくっていきたいと思います。そして、ペーパードライブ



ライバーと言われたいようにがんばります。  
小坂 美香 (ドリーム6)